

スーツの予算

平均を知ること、多様化している現代ではあまり意味をもたないのかもしれない。

しかし、ビジネスマンの切実なお財布事情を知らないままでは、何も語ることはできないだろう。僕もミニマルを標榜してはいるが、もう少しスーツに割く経済的な余裕がほしいところである。

以下は、総務省『家計調査年報（家計収支編）平成30年（2018年）』の情報を参考にしている。

さて、まず全体像を把握しておこう。

2人以上1000世帯を対象とした、世帯ごとの「被服及び履物」にかかる年間の支出平均は13万6613円である。つまり、月1万1384円で家族の服と靴、下着類をまかなっている計算になる。ファストファッションが盛り上がるわけである。

もう少し詳細を見てみよう。子供の学校制服なども合わせた「男子用洋服」は

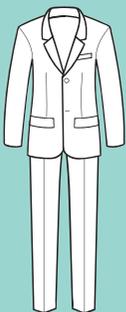
1万7458円。それに対して、「婦人用洋服」は3万603円。これに下着やシャツ、タイ、靴下、靴と続いていく。

男性は、プライベート用の服とスーツを合わせて1万7000円／年が平均額で、女性の半分以上はあるものの、かなり少ないといえるだろう。

となると、1万7000円／年がスーツにかかることのできる費用となり（ワイシャツは1532円／年、タイは469円／年、靴3943円／年などは別枠となる）、3年間でも5万1000円である。こう見ていくと、量販店のスーツはけっして安いとはいえないのだ。まして、3着揃えとなると、1着3万円のスーツで合計9万円（3年でローテーションすると考える）。すでに予算オーバーである。

ワイシャツは1年ごとに買い替え、かつ5枚準備するようにと本書では勧めているが、3枚1万円のシャツでも単価は年3000円／枚なので、平均額（1532円）を大きく超えることになる。ただ、これは統計のとおり方によるので、「他の男子用シャツ」として5345円／年という項目があり（セーターも入っているが）、インナー（シャツ含み）で7000円程度／年の消費額であると期待したい。いずれにせよ、最低限の清潔感を保つだけでも予算オーバーとなってしまう、本書のミニマルですら実現する予算はないことになる。

第2章 スーツ SUIT



さらにタイは、482円/年で悲惨な状況である。10年かけてようやく1本買える計算になる。もったも、タイを必要としない世帯もあるだろう。とてもじゃないが、タイが汚れそうな食事はできなくなってしまう。

靴下は1552円/年。ホーズが1本だけ買える金額である。やはり厳しい。世の中の男性がすね毛を出しているのは、仕方がないことなのかもしれない。

男子靴は、3943円/年。10年経てば日本製のグッドイヤーが入るものの、手入れを考えれば、予算オーバーである。10年待っても1足しか買えない。とても3足を口ーテーションすることなど考えられない。

本書は極力経済的な負担を軽減する趣旨で書かれてもいる。それでも、提案しているものも平均からすると高級品となってしまう。だが、ルールとクラシックを考慮すると、これ以上予算を落とすことはできない。

やはり、紳士であるためにはある程度のやせ我慢が必要なのである。予算が取れるときを見計らって良い物を手に入れるしかない。そして、こまめな手入れを怠らず、長く使用していくのが現代日本における紳士の現実的な姿なのかもしれない。